

たどつ の むかし

Vol. 27 令和6年 1月 15日発行

遺跡の上に小学校！！「長福寺跡」

令和5年 12月 19日に多度津町立白方小学校の敷地が新たな周知の埋蔵文化財包蔵地、つまり遺跡に登録されました。遺跡の名称は「長福寺跡」といいます。



長福寺は『西讃府志』や『白方村史』などの古い記録にも残っており、それらから長福寺の正式名称は「朝日山医王院長福寺」であり、真言宗古儀派（大日如来の本地身説をとる真言宗諸派の総称）の寺院の一つである道隆寺に管理された寺院だったということが分かっています。寺院にあった仏像としては行基の作とされる薬師如来を本尊としていたようです。しかし明治24年3月6日に火事により鐘堂以外の施設や仏像などが焼失しました。そこが白方小学校の敷地となりました。つまり白方小学校は遺跡の上に建っているということになります。

現在小学校の敷地内には近くの天霧山から採取した石材(天霧石)を使った石造物(燈籠の一部、手水鉢、礎石、井戸枠など)が残っています。それらが中世から近世にかけて寺院が存在していたという証拠となりました。長福寺跡は多度津町内で108番目の遺跡となります。



礎石



手水鉢



井戸枠



燈籠の一部